

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 **だんらん**)

事業所番号	0673000675		
法人名	株式会社 互惠		
事業所名	コミュニティママ家		
所在地	山形県鶴岡市中田字追分162-2		
自己評価作成日	平成30年11月9日	開設年月日	平成17年9月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いつまでもご本人らしい生活が出来るよう努めています。
一律に管理していくのではなく、一人ひとりがあるべき姿で過ごし、生活が送られる様意識しながら、生活リハビリを主とし、個々に合わせた余暇活動(一人ひとりにあった楽しみや、役割)の支援。
コミュニケーションの重要性を意識しながらの支援に努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社福祉工房		
所在地	仙台市青葉区国見1-16-27-2F		
訪問調査日	平成30年12月13日	評価結果決定日	平成31年 2月 6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりが役割を持ち、それぞれの出来る範囲で事業所の中の活動に参加し、やりがいや達成感を感じられるような支援が行なわれている。利用者との日常のコミュニケーションも活発に行なわれ、利用者や家族の意向を踏まえ、出来るだけ利用者が笑顔でいられる環境作りが行なわれている事業所ではある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念に沿ったユニット目標の設定を行なっている。ユニット会議(1回/月)の場で、目標の取り組みに対する評価を行なっている。	法人の理念を基に事業所の理念が作成されユニットの年間の目標がユニット会議で職員の共有課題で評価することであるが、事業所理念をユニット会議等で作成して行くことが望まれる。	法人の理念をもとに、事業所としての理念を、職員と話し合いをしながら策定し、職員に浸透して行くことが望まれる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の敬老会、スポレクに毎年参加させてもらっている。公民館の掃除・ゴミ拾い活動を行い、町内会の活動も一緒に行った。防災訓練に地域消防団の参加あり。お客さんと言う扱いで行事参加になっていて、地域の一員・地域に開かれた事業所にはなれていないと感じる。	地域の行事や活動に参加、防災訓練にも参加して頂いている、地域との関係作りが積極的には行なわれていない、事業所としての役割等の検討が望まれる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中高生の職場体験受け入れ実施。依頼があれば学校や地域の方への講演を行っている。近所の方にもAEDが設置してある事、緊急時は協力する事を伝えている。地域の福祉事業所情報交換会に参加。困り事があれば相談等声掛けしていただけるよう伝えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回、民生委員、包括職員、介護相談員、職員も参加し、事業所の運営状況報告を行なっている。意見を頂きサービスの向上に役立っている。	法人の事業所ママ家と合同で2か月に1回、包括支援センター、民生委員、介護相談員等が参加して開催されている。事業所の状況報告、課題等に参加者から意見を頂き、サービス向上に役立っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、介護相談員の訪問がある。仕組みや制度など、あいまいな点や気になる事分からない事があれば問い合わせし、教えて頂いたりしています。	運営推進会議に参加しているので事業所の状況は把握されている。介護相談員が月1回訪問し利用者の希望や意向を聞き情報を得ている。日頃より相談できる関係が出来ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	定期的に身体拘束の研修を実施している。玄関にチャイムをつけたり、使用する際は家族への説明を怠らず、ご理解・ご協力を得て離床センサーを使用し、拘束しないケアを行なっている。	内部で身体拘束の研修をして、事業所の対策を家族にも了解して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての勉強会を実施。不適切ケアだと感じた時はヒヤリ・ハットへ記入し、情報共有を行ない虐待行為に繋がらないようにしている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を設けておらず、理解している職員は少ない。成年後見制度を利用している方の手続きや関係者との話し合いは管理者が行っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、管理者や事務方で実施している為関与する事は無い状況にある。事業所に見学に見えた際、案内は実施し、事業所の説明大まかな料金・事業所で出来る事出来ない事の説明を行い、その上で不安な事、聞きたい事は無いか確認し、返答できない部分は確認し後日お伝えするようにしている			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。家族の訪問時、ケアプランの更新時に意見・要望の聴き取りをしている。普段の会話から、入居者さんの要望をくみ取っている。	意見箱を設置して家族の意見を集約している。「よくある質問」として利用者、家族が知りたい質問に対しQ&Aの形にまとめている。ケアプランや更新時に意見、要望等を聞いている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の満足度調査アンケートを実施しており、意見・提案を出来る状況にはあるが、反映されていない事が多い。殆ど反映されていない。改善が見られない。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務変更や勤務表配布後の調整は管理者が行っている。上半期、下半期で人事評価も実施している。 仕事、休みをしっかりと切り離すことが出来ればまた頑張ろうという意欲にも繋がっていくと思う。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	回覧板にて研修を知らせている。外部研修への参加は少ない。内部研修は、看護師や職員が指導者として行なっている。会社から研修受講の指示はほぼ無い。	回覧板で外部研修のお知らせをしているが参加者が少ない。事業所では研修参加希望の時は勤務の調整をしている。内部研修は看護師や職員が指導して行なわれている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH連絡協議会へ加入しており、交換実習や研修・講演会を通し、他事業所との交流があった。県GH大会へ参加する機会はなくなり、他事業所の取り組みや発表を聞ける機会が無くなってしまった。	グループホーム連絡協議会に加入、参加している、交換実習に参加、包括支援センター主催の情報交換会に参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談を行ったり、施設を見学して頂き。早く新しい環境に慣れてもらえるようにしている。言葉だけのやり取りではなく、表情やしぐさも気にかけて接している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困り事や不安をしっかりと受け止め、家族が求めている物を理解し対応している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の家族と話し合いを行い、現状の生活状況を把握した上で本人にとって一番必要な支援を受けられるよう考慮している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は出来ない部分のサポートを行い、生活の主体が入居者さんでいられるように協力し合う関係を大切にしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問時に、近況報告を行なっている。一緒にアルバムをみてもらい、生活の様子を知ってもらったり、話題作りにもなっている。外食・外泊・外出お進める事もある。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出行事に行きたいところの希望を取り入れている。年に数回しか会えない方の訪問があった時は、写真を取り、居室へ飾っています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングや、車に乗った時の座席は相性を考慮し決めさせてもらっている。職員が間に入る事で、入居者同士の交流が出来る。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている				
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションの中から、本人の思いや、望む暮らしを探っている。意思疎通が難しい方に対しては、生活歴を参考にしたり、家族の方から一緒に考えてもらっている。	日々のコミュニケーションからひとり一人の思い、暮らし方の希望、意向の把握について家族からも話を聞いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に情報収集を行っているが、入所後に知りたい事が出来た場合は、家族や関係者に聞き取り、把握するようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日お健康観察で、身体の状況を確認している。心身共にいつもと違った様子が見られた場合、情報共有し経過観察を実施している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議で出される問題や提案を考慮し計画作成を行なっている。課題の解決の為に、支援の仕方を変更したり、専門職に相談やアドバイスをしてもらっている。その上で、皆が納得できるような個別の計画を作成している。	毎月モニタリングがおこなわれている、担当者からの情報を参考にして現状に即した介護計画が作成されている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の生活の様子をPCにて記録し、情報共有を行なっている。気づき報告書(ヒヤリハット)の活用で、大きな事故の予防に役立っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーに買い物緒に行ったり、公民館や市で行なっている展示会・催し物に行き楽しんでる。地域で行なっている敬老会、スポレク、文化祭に毎年行っている。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の協力医でもあり、今入居されている入居者さんのかかりつけ医の定期回診が月1回あり、健康状態を確認してもらおう事が出来ている。気になる事があれば回診時にDrに相談し、助言や指示を受けている。回診以外でも、気になる事があれば看護師に伝えかかりつけ医への報告。受診の指示を受ける事もある。	協力医は月1回往診、かかりつけ医の通院は家族が出来ない時は看護師が受診同行している	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師への報連相が出来ており、適切に受診・看護が受けられている。介護職に対して、看護師が研修を行ったり、介護⇔看護の連絡ノート活用。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった場合は情報提供を行なっている。出来る限り病院に足を運び、現状の把握に努め、情報交換を行なっている。退院指導の時は、可能な限り家族と一緒に同席する様努めている。		
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のお話を家族に対し、何時すべきなのか迷いがあるが、大きな病気を抱えたい方、90歳を超えている方には、ケアプランの更新時に再度、GHでの医療的ケアの限界を説明させてもらっている。時々状況に応じ、ご家族・主治医・介護支援専門員・職員が出来る事や希望する事など相談、提案しながら、関わるスタッフ、家族が協同で支援している様取り組んでいる	入所時に事業所の指針を説明して重度化した場合の同意を得ている。協力医、家族、看護師、ケアマネや職員でチームを組み取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署指導の下、職員全員が心肺蘇生、AEDの講習を受けている。緊急時に適切な対応が出来る様、ユニットにマニュアルファイルを置いている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や消防団、近所の方から協力を頂き、日中想定・夜間想定での訓練を行なっている。ユニット内でも防災委員を中心とし、発生場所ごとの避難経路の確認などの机上訓練や、地震発生後の行動。実動訓練を実施している。地域との協力体制にはまだ課題があると感じる。	年2回避難訓練を実施している、11月には消防団、消防署参加して夜間想定で実施、日中想定の際は連絡網や避難経路を確認しているが地域との協力体制に関して検討が望まれる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誰に対しても同じでは無く、個々に合わせたコミュニケーションを取っている。新しい職員が来た際は、主任を中心として、個々に合わせたコミュニケーションの取り方にも重点をおき、指導する様取り組んでいる。	挨拶や利用者を尊厳する姿勢に気を付けている、新人職員には主任が現場で指導している。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出の際、希望を聞く事や一緒に買い物に行った時は、好みの物を聞いて籠に入れてもらうようにしている。なるべく職員の声掛けなしに自己決定出来る様関わり、環境づくりをしている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間帯によっては職員のペースに合わせてもらっているが、出来る限り個々のペースに合わせる努力をしている。強い希望があれば出来る限り対応している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る方には入浴後の衣類の選択を自分で行なってもらっている。 毎年行われている敬老会に、女性の方は化粧をして参加している。居室に鏡を置いている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は行っていないが、配膳から片づけまで、入居者と職員が協力し合い出来ている。男性入居者も協力してくれている。	男性職員、利用者が多いが配膳、下膳等が職員の声掛けで参加している。ごはん炊きとみそ汁はユニットで作っておかずは依頼事業所から宅配されている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事形態で提供している。食事、水分量の低下が見られた場合は、記録用紙にて把握している。本人の覚醒状態により、食事時間をずらしている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前に嗽をしてもらっている。(飲み込んでも害がなく、殺菌効果のある緑茶を使用)。食後は口腔ケアを行い清潔な状態が保たれるようにしている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、時間でのトイレ誘導を行う事で失敗を減らす事が出来ている。今までがこうだったからこのままというふうにはせず、現在の状態や状況を見ながらオムツ使用を減らしたりパンツのタイプ変更に取り組んでいる。パットの大きさが小さい物でよくなった方や、リハビリパンツから失禁用のパンツや布パンツになった方も。	トイレでの排泄を基本としている。排泄パターンを参考に声掛け、誘導でオムツを外すようにしている。リハパンツ、失禁用のパンツ、布パンツ等利用し成果を上げている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時には漢方茶(センナ)を飲んでもらったり、腹部マッサージを行なっている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	強い入浴拒否がある場合は、無理強いせず対応している。入居者さんの状態に合わせて、入浴の実施や入浴順番を決めている。夜間浴は実施していない。	週3回を基本としているが、利用者の希望、状況によって実施している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温湿度の管理を行なっている。食事・おやつ以外の時間は自由に過ごしてもらっている。静養時間は個々に合わせて対応。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬状況を把握し、下剤の調整を行ったり、状況に応じて看護師、医師への報告相談をしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や家族からの情報をもとに、日々の生活に取り入れている。コミュニケーションを通し、積極的に関われる事を探り実践している。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族に対し、外食や外泊を勧めている。外出行事の時は、入居者さんへ希望を聞き行き先を決定する事もある。地域の人との外出は実践できていない。	近隣の人と挨拶を交わす環境が困難なのでドライブや買い物等に外出するが家族や友人の協力で外食が出来るようにしている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出し買い物を行なう時に、お金を預ける場合があるが、お金の価値、意味を理解できていない方も多い。お金を手元に所持している方はいないが、事務所で預かっているのを聞いて安心出来ている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族といつでも電話が出来る状態にある。毎年、写真入りの年賀はがきを送っている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要に応じ貼り紙をしている。室内にいても季節を感じてもらえる様に居室やリビングにディスプレイしている。	月山が見える田園の中にあり、いつも季節を感じられる。暖房が十分に整備されて居心地のいい環境です。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子での着席だけでなく、座布団に座れる空間がリビングにある。リビングでゆったり過ごしてもらえるように、ソファを設置している。入居者さん同士の相性に配慮した座席配置にしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅にあった物を居室に飾っている。家族写真を置いたり、TVやラジオを置いている方もいる。	安心して生活できるように自宅で使用していた物や家族写真等を飾っている、家族、職員の工夫がされている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り、自分で判断し行動していただける様工夫を行なっている。			